

協働の まちづくり

ニュース

Vol.10
2010.3月号



「協働のまちづくり」推進のための支援施設が完成しました！

市では、去る1月31日（日）、日向市文化交流センター小ホール棟2階に、「日向市市民活動支援センター」をオープンしました。この施設は、市民の皆さんが公益的な市民活動を行うための活動拠点と位置付けた施設であり、「協働のまちづくり」推進のための支援施設です。オープン当日は、施設をよりよいものとするべく、市民主催の「オープン記念討論会」が開催されるなど、市民の皆さんの大きな関心と期待を集めての船出となりました。



- P 2～3 特集①／新しい地域コミュニティ組織制度導入検討事業
○細島・塩見・平岩 モデル3地区の取組
- P 4 特集②／日向市市民活動支援センター 施設紹介
- P 5 協働へのアプローチ
○市民まちづくり支援事業下半期実施報告
- P 6～7 市民協働課掲示板／『ひまわり日記』
- P 8 元気印！／NPO法人 日向みんなの図書館

モデル3地区合同先進地視察

視察先
 ◆福岡県宗像市 東郷地区コミュニティ運営協議会
 ◆宮崎県五ヶ瀬町 夕日の里づくり推進会議

10年後、20年後を見据えた「持続可能な」安心して住み続けることのできるまち「の創造」と地域内分権などを主な目的として、細島・塩見・平岩の3地区でまちづくり協議会の設立準備が始まっています。今後の取り組みの参考とするために、1月28日～29日の日程で3地区合同での先進地視察を行いました。

◆東郷地区コミュニティ運営協議会
 宗像市の人口は9万5436人で、コミュニティ地区の数は13地区あります。東郷地区はその中でも比較的大きな地区の一つで、人口は9292人です。
 東郷地区コミュニティ運営協議会は平成15年に設立され、センターも平成18年に竣工しています。東郷地区に対するまちづくり交付金については、市の各担当課から各団体・各自治会等に交付していた各種補助金・助成金を統合して、用途を限定しない交付金として一括で交付されています。その交付金は、設置されている4つの部会やコミュニティ全体の活動に活かされています。

また、協議会で「まちづくり計画」を平成20年度に策定。ワークショップ等を通じて、普段の生活の中で東郷地区民が抱える課題や意見を抽出して集約し、「将来像と具体的活動のまとめ」として111項目にも及ぶ地区民からの提案が掲載されています。
 去年と今年は、この計画をもとに東郷地区コミュニティ運営協議会の活動が繰り広げられています。



▲東郷地区コミュニティセンターでの研修

◆夕日の里づくり推進会議
 都市と農村の交流を目的とした「グリーン・ツーリズム事業」を活用して、総戸数205戸の地区が元気になっていく事例です。

「自然が多く残り、夕日が美しいだけの所に都会の人が魅力を感じるのだろうか？」という当初にあった不安や疑問が、今では「夕日の里づくり」を通じて自信と誇りに変化しています。
 この事業は、十数年という歳月をかけて取り組まれていて、今では「夕陽の里フェスタ」「農村民泊」「ふるさと体験交流ツアー」「夕日の里物産館」などといった事業を展開しています。事業を通じて『宮崎県五ヶ瀬町夕日の里ふくおか町人会』も福岡市に発足し、交流が続いているそうです。

また、町に訪れるお客様のために始めた県道の除草作業も、いつしか地域住民にとっても大事な行事となり、その取組が評価されて「県道の舗装2車線化」の実現に繋がった取組の報告もありました。
 他にも、都会にはある意味の過疎が起きている事（自然の過疎・人情の過疎＝逆過疎）、それを満たす「心ものさし（となる宝）」はどの市町村にもあるという事など、たくさんのお話もいただきました。

視察先で応対して下さいました後藤さんから「地域づくりへの想い」を寄稿していただきましたのでご紹介いたします。

未整備の県道。町の施設は小学校以外何も無い。あるのは閉塞感……。何も無いことを逆手に取って「開発なき開発、開発すべきは住民意識」を掲げ、夕日の里づくり推進会議を立ち上げ15年になります。

手作りの活動を通じて住民の意識がここまで変わるとは考えもしませんでした。その中で、農村民泊を始めきつかけづくりとして取り組んだ都市と農村の交流事業に大きな意味があったと感じています。都市住民と共に気付かなかった地域資源を再発見し、自信を取り戻し、応援団を頂くことができました。今海外の子ども達もやってきましたが、どこにもある農村原風景、文化、そして人情という宝物は観光資源だけでなく総合的教育力だと考えています。
 これからも「おかえりなさい」心のふるさと五ヶ瀬のコンセプトを掲げ、時を駆けながら皆で前進していくと心を新たにしているところです。



夕日の里づくり
 推進会議
 会長 後藤 福光

設立準備会が動き始めました。

昨年12月に、細島地区と平岩地区で「まちづくり協議会設立準備会」が発足し、これまで準備を進めてきましたが、このほど自主的な取組が始まりました。

細島地区では、地域住民のつながりが強いことから「青少年育成部会」、「生活環境部会」、「福祉・健康部会」、「地域活性化部会」、「公民館活動部会」の5つの専門部会を設置。先日、全体説明会と専門部会が開催されました。今後は、専門部会を中心に地域課題の拾い出し作業に入っていきます。

平岩地区では、なぜこの制度を平岩地区が活用しようとしているのかを9つの区を全て回って説明。その後、各区の現状や課題などの意見交換をしています。今後は、再び全区を回って座談会を開催し、地域課題の拾い出し作業を行って、同時に課題から見えてくる専門部会の配置を行っていきます。

塩見地区には、「設立準備会」のような組織はありませんが、これから厄年会を中心に、組織づくりや地域課題の拾い出しの方法について協議がはじまります。

平岩まちづくり協議会設立準備会 説明会



▲笹野東地区公民館



▲初木地区公民館

HOSOSHIMA まちづくり協議会設立準備会 全体説明会&専門部



▲全体説明会（細島公民館）



▲各専門部会に分かれての協議

- ① 地域課題の抽出
地域住民の意見・要望をまとめます。同時に「地域の夢」を語ります。
- ② 地域課題の仕分け
「自助・共助・公助」に基づき課題を分類します。
- ③ まちづくり推進〇か年計画策定
まちづくりの目標、基本方針や、年度別事業計画をつくります。
- ④ 事業実施

「新しい地域コミュニティ組織制度」導入のきっかけ ～モデル3地区の場合～

細島 公民館の組織の規模が小さくなってきている。高齢化が進んでいる。「将来は、細島小学校区でまとまって活動する事も考える必要があるのでは。」と感じていた。

塩見 高齢化が進みつつあり、地区の取組に対して将来不安がある。「厄年会を中心とした若者たちに地域の今後はゆだねたい。」という気持ちがあった。

平岩 自治会・振興会・区長会といった複数の組織がある。組織の高齢化にも不安がある。「組織の整理や一元化を検討してみたい。」という気持ちがあった。

区を越えて、小学校区単位で取り組む「新しい組織」を検討。

10年後、20年後を見据えて「持続可能な“安心して住み続けることのできるまち”」づくりを目指します。



▲ まちづくり講演会の一コマ

平岩振興会の主催する同事業では、前年度より継続して実施した「平岩海岸探勝道の整備」、「新春お倉ヶ浜凧揚げ大会」のほかに、今年度より新たに「平岩地区まちづくり講演会」を開催しました。

この講演会では、NPO法人きよたけ郷ハートム理事長である初鹿野聡さんを講師に招き、「一人の百歩と百人の一步」という演題で講演会を行いました。当日は、約200名の住民の皆さんが講演会に参加し、平岩の未来について考えました。

日豊海岸(お倉ヶ浜、金ヶ浜)の自然を活かした地域活性化事業

平岩地区まちづくり事業

市民まちづくり支援事業 下半期事業実施状況を報告します!

平成21年度の下半期支援事業で採択された6事業のうち、現在も継続中である2事業を除く4事業が事業を終了しました。ここでは、採択事業6事業の実施状況を報告します。

第4回花いっぱい夢街道 日知屋地区市民植栽

今回で4回目を迎えた日知屋商店街主催の「花いっぱい夢街道 日知屋地区市民植栽」。今年度は、間伐材を利用したプランターを作成するなど、新たな取組にも挑戦しました。

人と動物がともに暮らせる まちづくりをめざす事業

下半期支援事業で唯一の新規事業であった同事業は、『動物の命を守る一日向(ひなた)の会』による啓発事業です。飼い主不明の犬・猫の増加防止対策や飼育においての悩み相談、里親探し活動を行っています。

映画「おとうと」 先行上映会

山田会が主催した同事業には、2度の上映会に約2400人が来場。事業当日、体調不良の山田洋次監督は欠席したものの、主演を務めた女優の吉永小百合さんが舞



▲ 灯籠とイルミネーションの幻想的な光

ひむかあかりアート展 宵祭り 2009

ひむかあかりアート展実行委員会が主催する「ひむかあかりアート展・宵祭り2009」。6回目を迎えた今年度は、地域の高齢者クラブによる小・中学生への灯籠製作の指導、灯籠コンテスト会場の増設、芸能文化イベントと併せての事業実施など、新たな取組を加えた幅広い活動を行いました。

台あいさつを行い、会場は大いに盛り上がりました。



▲ 欽ちゃん、感動をありがとう!



▲ 連日、スタンドは多くの市民で埋め尽くされました

欽ちゃん球団ゴールデンゴーズ 日向キャンフ2010 受入事業

今年で6回目を迎えた同事業。今回の春季キャンフが日向市での区切りということもあり、連日多くの市民が、会場となった大王谷運動公園野球場を訪れました。今回のキャンフでは、恒例となった「欽トレ」のほかに、萩本欽一監督の「一日日向市長就任」や市民歓迎会も行われ、最後まで話題と『笑い』の絶えないキャンフとなりました。

だれでも利用できますか?
政治・宗教・営利を目的とした活動を行う者及び公の秩序を乱すような利用目的でなければ、どなたでもご利用できます。

利用する時は、どうすればよろしいのでしょうか?
原則「使用許可申請書」の提出が必要となります。ただし、交流サロンは、窓口申し出るだけで利用できます。

登録をしないと利用できないのでしょうか?
施設を利用するのに、登録の必要はありません。ただし、登録団体であれば、毎回の使用許可申請書の提出が省略できます。

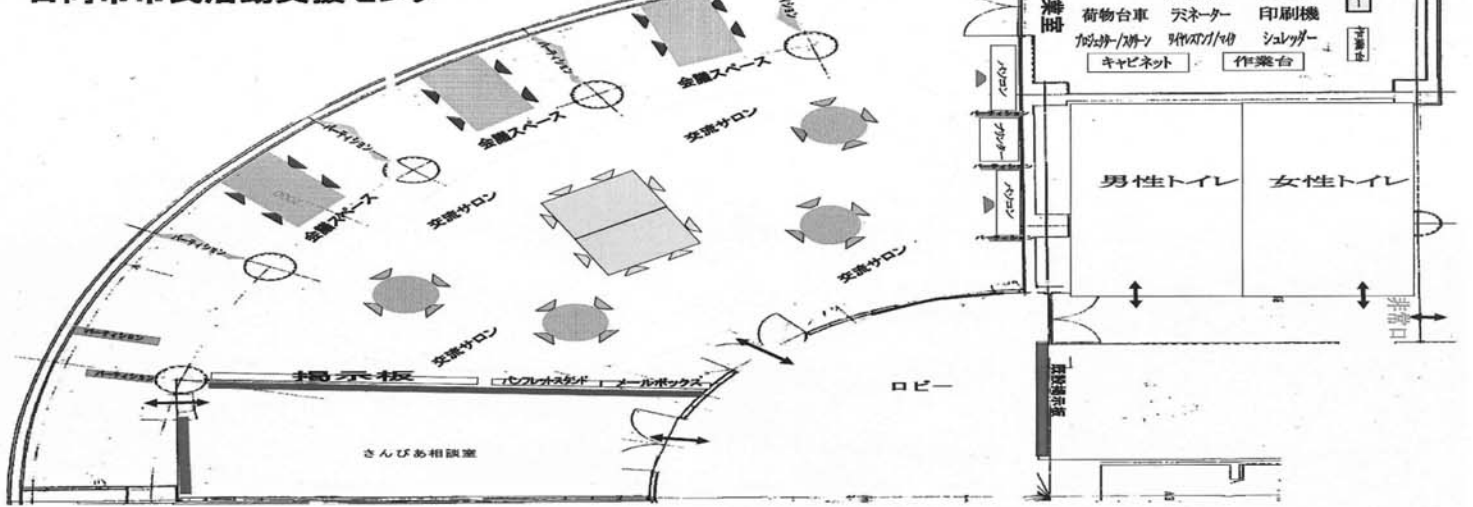
事前に予約することができますか?
3ヶ月前から予約することができます。定期的に利用を考えている団体などは予約すると便利かと思えます。

使用料が必要ですか?
施設の使用料金は、無料です。ただし、印刷機での印刷及びパソコンでの出力の際は、実費額の負担が発生します。

可申請書」を提出してください。

電話での受付は、仮予約として受け付けますので、後日「使用許可申請書」を提出してください。

日向市市民活動支援センター



- ①交流サロン**
打ち合わせや交流の場として使用できます。また、掲示板などではイベントや行事等のお知らせができます。
- ②会議スペース**
4名程度の小会議を行うことができます。3つのスペースに区切っていますが、自由に移動させて使用できます。
- ③パソコンコーナー**
資料作成や情報検索に使用できます。パソコン本体へのデータの保存はご遠慮ください。(白紙以外の用紙は、使用者の持込となります。)
白黒出力：10円/1枚
カラー出力：30円/1枚
- ④作業室**
資料印刷や製本などを行うことができます。印刷機・紙折機・製本機などを設置しています。(印刷用紙などの消耗品は、使用者の持込となります。)
印刷 原版：100円/1枚
印刷 印刷：100円/500枚
- ⑤備品の貸出**
以下の備品の貸出も行います。
プロジェクター/スクリーン 1式
ワイヤレスアンプ/マイク 1式
荷物運搬台車 2台
ロッカー 16団体分
メールボックス 72団体分
ロッカーは、団体の備品などを収納できます。メールボックス使用者には、チラシなどの投込みを行います。

設置場所：日向市文化交流センター小ホール棟 2階
 利用時間：午前9時～午後10時(ただし、平成22年3月31日までは、午後5時で閉館いたします。)
 休館日：水曜日/5月3日～5月5日/12月28日～翌年1月4日
 問合せ先：企画政策部 市民協働課(TEL:56-0017 FAX:56-0018)



視察研修終了後、受講生は「日向市へのフィールドバック」をテーマに協議を重ねました。そして、橋口班の取り組み「情報の共有化」に特化した自主企画事業を実施することとし、1月31日の「日向市市民活動支援センター」のオープン当日に市民主催の「記念討論会」を開催しました。

パネルディスカッション方式での討論会を計画した受講生たちは、すでに同様の施設を管理・運営する先進地の中からパネリストを選定。視察でもお世話になった「佐賀市民活動センター」の施設長を務める吉村興太郎さん（NPO法人さが市民活動サポートセンター専務理事）、福岡県北九州市門

自主企画事業



▲ 国際通り商店街とのワークショップ後の1枚

適正に保たれるという効果がある点などを学びました。



▲ 「本音」の部分を読んでもらったパネリストの方々

司区で、「民設民営」の支援施設を運営する竹中康二さん（NPO法人門司赤煉瓦倶楽部事務局長、県内先進地として、延岡市民協働まちづくりセンター事務局長の福田政憲さん（NPO法人のべおか市民力市場理事・事務局長）を招き、「支援センターの未来に望むもの」をテーマに、パネルディスカッションを行うこととしました。

当日は、会場設営等の準備を終えた後、市民活動支援センターのオープンセレモニーに参加。セレモニー終了後、会場を日向市中央公民館第4研修室に移し、事業を開始しました。

パネルディスカッションに先立ち、受講生の代表者が今回の事業開催までの経緯などを報告し、その後、パネルディスカッションを行いました。



パネルディスカッションは、コーディネーターの馬場和久さん（延岡市）の進行で行われ、各先進地での取組紹介や情報共有のためのアプローチ方法・支援策などについて、熱い議論が展開されました。最後に、新たに市民活動支援センターをオープンする日向市に対し、それぞれのパネリストからアドバイスをいただき、約2時間の事業を終りました。福田さんの「支援センターができたことがゴールではなく、これがスタート。市民と行政とが、この施設を『自分の家』だと考え、使用するようになれば、きっと素晴らしい施設になると思います。」との言葉に、参加者が大きくうなずく姿が印象的でした。

事業当日は、あいにくの雨となりましたが、50名を超える市民の皆さんが参加しました。参加した市民からは、「今後は行政に任せるのではなく、市民が主体となって協働の意識を持つことが大切。」「先進地のエネルギーを強く感じました。日向市も負けないように頑張らなければ。」といった感想が聞かれました。

編集後記

▼表紙は、1月オープンの「日向市市民活動支援センター」の外観。場所は、文化交流センター小ホール棟の2階です。皆さん、ぜひご利用ください。▼欽ちゃん球団ゴールデンゴールズ最後の日向キャンプが終了しました。寂しい気持ちはありますが、これからも選手たちの変わらぬ活躍を願っています。

エディターズ

（し）

掲載記事を募集します!!

市民協働課では、情報紙「協働のまちづくりニュース」で紹介する『協働の取組』に関する情報を募集します。自薦・他薦は問いません。「これって協働かも?」と思ったら、市民協働課までご連絡ください。私たちが皆さんの活動をPRします!

ご連絡は、裏表紙下段に記載の市民協働課まで。



班	テーマ	視察地
橋口班	市民活動団体間の情報共有化の施策を学ぶため、支援センターの先進地を視察する。	佐賀県佐賀市
那須班	現行のイベントを活性化するために、情報発信等の取組における先進地を視察する。	熊本県小国町
畑中班	地域活性化のための手段として、「地域通貨」を活用している先進地を視察する。	大分県別府市
寺原班	観光客のための「観光マップ」作成と商店街の活性化策を学ぶため、先進地を視察する。	沖縄県那覇市



▲ 佐賀市民活動センターの利用風景

先進地視察研修

平成21年度の同事業では、8月開催の「まちづくり座談会」の中で課題として挙げられた4つのテーマに対し、受講生を4つの班に分け、班ごとに調査・研究を重ねてきました。そして、それらのテーマにおける先進地を受講生自身が選定し、連絡調整をし、先進地視察研修を行いました。

「情報の共有化」をテーマに調査を進めた橋口班は、佐賀県佐賀市にある「佐賀市民活動センター」を視察し、行政と市民活動団体の間に立つ存在である中間支援組織の意義について学びました。



▲ エフエム小国の番組には受講生も出演

「情報発信」をテーマに先進地視察を行ったのが、那須班です。コミュニティFMにおいて、地域密着型の番組製作で定評のある熊本県小国町の「エフエム小国」を訪れた那須班は、町役場1階に設けられたスタジオでの番組収録を見学し、地域のイベントを盛り上げるためのコミュニティFMを体感しました。なお、代表者2人が急きよ番組に出演することとなったため、日向市とリーダー養成事業のPRを行ったとの報告を受けています。

「観光マップの作成と商店街の活性化」をテーマに沖縄県那覇市を訪れた寺原班は、「那覇観光協会」と「国際通り商店街」を視察。訪問先では、ワークショップを実施し、様々な意見交換を行いました。国際通り商店街とのワークショップの中では、週末に実施するトランジット・モール（歩行者天国）のあり方について、商店街の30%もの人々が反対をしているといった現状や、その一方で、地域の住民も商店街を訪れるきっかけとなり、おみやげ物屋が立ち並ぶ商店街にあって、商品価格が



▲ 地域通貨を利用したまちづくりを体感

事業創設3年目を迎えた日向市ひまわり基金事業・人財づくり事業・市民活動団体リーダー養成事業。今年度は、21人の受講生（平成22年2月1日現在）が参加し、3月開催予定の修了式（事業報告会）に向けて、最終の準備を進めています。今回の「ひまわり日記」では、先進地視察研修以降の受講生たちの取組について紹介いたします。

ひまわり基金事業・市民活動団体リーダー養成事業経過報告

展開する「アチチ中央銀行」と特定非営利活動法人「ハットウ・オンパク」の代表に話を伺いました。アチチ中央銀行の高田富士夫総裁の、「まずは自分たちが楽しむことが大事」というアドバースが印象的だったとのことです。





特定非営利活動法人

日向みんなの図書館

所在地 日向市南町6番28号
 代表 黒木 和政 さん
 連絡先 55-0070(赤木さん)

私たち「特定非営利活動法人 日向みんなの図書館」は、長期にわたって読書推進活動に携わってきた図書館職員、また、ボランティアとして実質的に活動してきたメンバーが、今後もより発展・充実した活動を推進していくために、平成20年8月に設立したNPO法人です。読書推進を通して、行政と市民との連携、地域と家庭との結びつきがより活発になることを目指し、おはなし会の実践や講演会の企画・運営、伝承あそびなどを行っています。昨年の8月には、ジャスコ日向店2階催事場にて、「武田美穂とお化けをつくろう！」と題したイベントを開催し、約100人の参加者とともに絵本の読み聞かせや「お化けづくり」を行いました。また、12月には、日向市文化交流センターにて、「2009みんなの広場 おとなだってえほん大好き」と題したイベントを開催し、絵本作家きうちかつさんによる絵本の読み聞かせや昔の遊び体験、子どもカフェ、巨大クリスマスツリーの装飾などを行いました。なかでも、きうちさんを講師に招いて行ったワークショップ「つくってあそぼう！おみせやさん」では、保護者がお店、子どもがお客に分かれて、「おみせやさんごっこ」を行い、大いに盛り上がりました。

今後も、私たち「日向みんなの図書館」では、様々な読書推進活動を通して、市民の生活文化に対する意識の向上と定着を図り、子育てしやすい明るく豊かで楽しい社会生活を応援するため、活動していきたいと考えています。



▲みんなが楽しく「お化けづくり！」



▲県との協働による読み聞かせ講座には、延べ500名が参加



▲「みんなの広場」では巨大ツリーを製作。

共に学び・共に育ち・共に変わる

「協働のまちづくり」ホームページをご覧ください！

日向市市民協働課では、平成20年4月より「協働のまちづくり」ホームページを開設しています。このホームページでは、「協働のまちづくり」推進に関する取組や、関連する「国際交流」、「男女共同参画」、「人権・同和問題」に関する取組を紹介しています。

【掲載コーナー】

1 協働のまちづくり

- (1) 協働のまちづくり指針：協働のまちづくり指針、協働のまちづくり推進ガイドブックの掲載
- (2) 協働のまちづくりニュース：過去に発行した「協働のまちづくりニュース」の掲載
- (3) 市民まちづくり支援事業：事業紹介、補助金交付要綱、募集要項、応募様式、実績一覧などの掲載
- (4) ひまわり基金事業：条例・各事業紹介、助成事業申請様式などの掲載
- (5) まちづくり100人委員会：事業紹介、入会申込書などの掲載
- (6) 市民活動支援コーナー：各種助成事業等へのリンク集

2 国際交流まちづくり推進事業：国際交流員紹介、事業紹介など

3 男女共同参画：条例・事業紹介、参加者募集など

4 さんぴあ：「さんぴあ」ホームページへのリンク

5 人権・同和問題：事業紹介、参加者募集、外部リンクなど



詳しくは「協働のまちづくり」ホームページをご覧ください！

日向市 協働のまちづくり

検索